

建築設備工事業における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	11~12	当社倉庫内において、片付け中に釘が刺さった木片があり、右足に釘が刺さり負傷した。	28	—
3	14~15	本社倉庫前の駐車場において、建築現場に向かうため倉庫からトラックへ道具や資材を積み込んでいたところ、立てかけてあった鋼材が倒れてきて左足に直撃し、左親指の付け根を骨折した。	62	1~9
7	11~12	工場内で鉄管の解体作業中、取り外した鉄管（重さ約40kg）の両端をそれぞれ紐で結びそれぞれの紐を二人持ちで床まで降ろしているとき、高さ約2メートルのところ で片方の紐が解けたためもう片方の縛られたところを支点に鉄管が振り子のように大きく揺れ落ちてきた際、床で作業していた被災者の左足甲部に鉄管がぶつかり、その部位に負傷したもの。	47	10~29
7	4~5	改良工事において、PCパネルの撤去・設置の作業終了後、レールスクーターに添乗し、線路退出箇所へ移動中、眠気に襲われ、レールスクーター床面から右足を落したため、スラブ版角に接触し、足を骨折した。	40	10~29
10	9~10	鋼材（125角×6.5m）搬入トラックの荷台に乗り、玉掛された鋼材を荷下ろし誘導中に、鋼材が脇腹に接触し、左肩を荷台から地面に転落した際、強打した。	59	30~49
11	16~17	自立の出来ない入居者をベッドから車椅子への移乗を行っている時、かなり体重の重い入居者で、全く身体を支えることが出来ない方の為、被災者一人の力で車椅子へ移乗させなければならない。両腕を相手の脇の下に入れて運ぶのだが、ずり落ちそうになり、無理に腰に力を入れて支えた為、腰痛が起きたのだと思われる。	26	10~29

11	13～ 14	当社工場内において、資材等の整理整頓作業中、手袋を装着し長さ約1m重量約10kg～30kgのステンレスパイプ端材1本を両手で抱え所定の位置に移動させ床に置いたところ、該パイプと床面に左手を挟み、その際左手示し指、中指を負傷した。	48	～ 29
11	16～ 17	外壁改修に伴う仮設足場で外部足場解体を行う前に足場養生をしている壁つなぎ用鋼管パイプ1.5mを取り外し、地上にいる作業員に荷下ろしをしていた。地上より高さ2.7mあり届かないにも関わらず、残高1.2m～1.5mから落下させた。荷受け時に手を滑らせてしまい右足中指を負傷した。	32	～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html